

問 22年度予算について

答 出来るところから  
進めていく



小林 健志

問 9号台風による被害の復旧予算、河川整備について。

市長 災害復旧予算は総額34億6千万円余りになる見込み。復旧時期については緊急性が高く2次災害を招く可能性が高い箇所等概ね8割程度の執行を年度末までに発注する計画。農業関係は受益の多い農業用施設を優先し、次年度の水稻作付けに支障のない発注計画を立てている。中広瀬の河川整備については、対岸出石への影響も考慮の上整備するよう国に要望していく。

問 田井く中広瀬線の開通、市道の歩道設置について。

市長 当初完了予定の21年度末が23年度末になる予定。宍粟橋く石ヶ谷線の歩道については22年度に係自治会、地権者と協議を進め、23年度に

は予算要求できるよう調整。それまでは西側堤防を利用した暫定的な歩道設置の協議を進めている。

問 鳥獣処分について、捕獲後の処理は捕獲者による焼却、埋設処分が原則だが、鹿の頭数が増え負担が大きくなっている。市としての対策は。

産業部長

鹿等の処分方法については近隣市町共通の課題である。関係機関、各市町、県との協議の上実態調査をして、鹿の冷凍後の処分等も含め新たな施策も考え早急に対処したい。



田井・中広瀬線

問 農業、商店街に賑わいを

答 必要な支援を  
していきたい



高山 政信

問 農業行政を取り巻く環境は極めて厳しく、高齢化、後継者不足、農業所得の伸び悩み、また政府による事業仕分け等により、益々厳しいものとなってまいります。農家が努力しても限界があります。販売網の拡充拡大、また地域にあつた果実、野菜などの選定、育成、普及等行政が本腰を入れて取り組むべきと思いますが、所見を伺います。

市長

特産物の振興、育成についても生産者、加工者、販売者が一体となり取り組むべきものであると認識しており、今後どのような方法があるか常に考えながら工夫していきたい。

問

商店街は長期に渡り地域社会、経済の中心的な役割を果たしており地域活力の源であるが、その賑わいが失われている今だからこそ全面的な支援

策を打ち出し、商店街の活性化、イメージアップに取り組むべきだが。

市長

商店街の活性化は市としても重要な課題であり、支援としては空き店舗活用支援事業等があり商工会と一体となり進めてまいりたい。また商店街、店主の自発的なビジョンに対して関係機関と連携し必要な支援をしてまいります。

問

安心安全な道路、通学路の安全対策はなされているか。

土木部長

市民局ごとに再点検をし、実施していきたい。



千種町商店街